

公明党 坪井 謙治 議員

水辺環境の整備を中心として都市再生を

問 本市には、天神川・天王寺川・駄六川・昆陽池・瑞ヶ池などの水辺空間があり、多くの市民が集い、憩い、そして人と人とが結びつく場となっている。

そこで、市長公約の社会教育施設（新図書館）等を整備する際に、これらに水辺環境を創出させることにより、中心市街地の活性化にもつながると考えるが、当局の見解を問う。

答 提案のように、都市空間の中で、水は人の心を癒やし、まちの魅力を高める大切な要素と考えている。中心市街地における水辺空間の創出については、平成16年に大溝を再現したり、三軒寺前広場の一角に以前酒づくりで使用していた井戸を改修し、誰でも気軽に水がとれる設備を設置するなど、好評を得ている。今後、整備を予定している社会教育施設（新図書館）

坪井 謙治 議員

等は、伊丹ならではの歴史・文化の情報発信機能を備えた交流センターを併設することで、まちなかの中核施設として中心市街地の質的な向上と活性化が実現できるものと考えている。

そこで市民が集い、新たな交流が生まれる中、水辺などの要素を取り入れるという提案も視野に入れ、景觀に配慮した建物のデザインについて検討していく。



北村の水車小屋

「市立伊丹病院」DPCC移行による課題と対応について

問 平成21年度からDPCC（※）対象病院となり、新たに予約センターを設けるなどの対応をされているが、DPCC導入後の市立伊丹病院の運営状況、課題及び対応策はどうか。

答 DPCC対象病院への移行による影響のうち、収入面では、従前の出来高払いによる診療報酬の試算と比較すると、若干、増収傾向にあると思われる。

一方、患者への影響であるが、これまで入院中に現在の疾患と関係ない他の診療科の診療等を受けた場合、それぞれ出来高で患者に診療報酬を請求できたが、入院中での診療報酬はDPCCとしての診療報酬に包括されるため、病院で負担しなければならぬ事案も生じるなどしている。

またDPCC移行2カ月であり現時点での評価は難しいが、本院ではDPCC委員会を設置するとともにDPCC分析システムを導入し、より効率的な治療を行えるよう提案していく仕組みを実施しているため、半年以上経過すればある程度の評価はできると考えている。

用語解説 ※DPCC：従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日当たりの診断群分類点数をもとに医療費を計算する定額払いの会計方式。

共産党 加柴 優美 議員

特別養護老人ホームなどの待機者解消の対策について

問 介護療養型医療施設が平成23年度末で廃止されると、さらに不足が予測され、待機者解消に向けた施設の増設が必要と考えられるが、このような状況への対応について伺いたい。

答 伊丹市高齢者保健福祉計画（介護保険事業計画（第4期））の中で、取り組むべき基本施策の一つに、高齢者ニーズに応じた住環境整備として、新たな施設整備を行うこととしている。

整備内容は、認知症グループホームを4カ所・定員72人、小規模の特別養護老人ホームを2カ所・定員58人、小規模多機能型居宅介護を2カ所・定員50人の新規整備と、既存の介護老人保健施設の増床を平成21・22年度の2年間で実行していく。

計画の中の施設整備は地域密着型サービスの推進を

中心に「認知症高齢者と家族介護者の支援」と「老人



高校生に対する奨学金支給（就学援助）の創設を

問 小・中学校まで就学援助を受給している家庭にとって、教育費のかかる高校については、志望校が限られ、進学すらできない状況に陥るため、就学援助金の給付制度創設について伺う。

答 本市では、経済的理由により、修学が困難な場合、昭和46年度より「私立大学等入学支度金貸付事業」と昭和49年度より「奨学金事

業」を実施し、就学援助に努めてきた。ほかには県立・市立高校においては、授業料・入学金の減免制度を設けている。本市は県の奨学金貸与制度の応募に採用されなかった方を対象に、月額で国立修学者は1万2千円、私立修学者は2万1千円を貸与し、充実を図ってきた。今後、貸与方式を基本に、適正な修学支援に努めていく。

県・市の制度において、貸与された奨学金は、当該生徒が卒業後に返済することとなり、今後、制度全般についての周知に努めていく。